

自然環境保全論（環境倫理を含む）
 （Conservation of Natural Environment, and Environmental Ethics）

	1 年次	後期	2 単位
担 当 者	石井 実 藤原宣夫		
授 業 目 標	緑地環境科学を専攻する学生への入門的な動機づけ講義として、世界各地の自然の状況や社会的関心を引き起こしている自然環境保全問題に触れながら、広義の生態学、緑地学、社会学、環境倫理的な観点から生物多様性保全の考え方や手法、技術について講述し、自然環境保全に関する基礎的な理解を図る。		
授 業 の 概 要	世界および日本の自然・生物多様性の現状、生物多様性とは何か、さまざまな生態系とその成り立ち、保全生物学の考え方、世界および日本における生物多様性保全への取り組み、自然環境保全・生物多様性保全に関わる組織と制度、環境教育、環境倫理などについて講述する。 1．講義の概要説明・レッドデータブックからみた野生生物の現状 2．生物多様性とは何か（3つのレベル） 3．生物多様性と私たちの暮らし 4．生物多様性の危機要因（外来生物問題など） 5．生物多様性の危機要因（地球環境問題） 6．生態系の成り立ち 7．保全生物学とその考え方 8．さまざまな生態系と現状 9．さまざまな生態系と現状 10．自然保護・生物多様性保全への取り組み（世界の流れ） 11．自然保護・生物多様性保全への取り組み（日本の流れ） 12．生態系ネットワーク 13．日本の自然保護の現状と課題（里地里山問題など） 14．地球温暖化防止への取り組み 15．環境倫理と環境教育		
教 科 書	生物多様性キーワード事典，生物多様性政策研究会編，中央法規出版 2002 年		
参 考 書	五訂 地球環境キーワード事典、環境省地球環境部編、中央法規出版 2008 年 生態学入門、日本生態学会編、東京化学同人 2004 年 生態学からみた里やまの自然と保護、日本自然保護協会編 講談社 2005 年		
関 連 科 目	植物生態学、動物生態学、環境生態学、環境動物昆虫学、動物形態分類学、植物形態分類学など		
試験・成績評価	原則として 10 回以上出席した者を対象として、平常点 50 点 + 期末試験 50 点、合計 100 点で成績評価を行う。欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。		
備 考	毎回の授業ではプリントを配付し、解説と議論を行う。授業の中では、講義内容に関する簡単な質問を行ったり、資料収集を求めたりするので、受講者はそれらに対応してほしい。 （注）このシラバスは、平成 26 年度のものであり、変更する場合があります。 4 月以降に大阪府立大学ホームページ http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/ を参照してください。		